

平成 24 年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修士論文

体育系大学生における時間的展望と 重要な他者に関する研究

健康科学系

猪又 菜都子

論文指導教員 島内憲夫 教授

合格年月日 平成 25 年 2 月 25 日

論文審査員 主査 下村義夫

副査 牛尾直行

副査 島内憲夫

第1章 緒言.....	1
第2章 概念規定.....	3
第1節 時間的展望.....	3
(1) 概念の登場.....	3
(2) 概念の構造.....	3
(3) 定義.....	4
第2節 重要な他者.....	4
(1) 概念.....	4
(2) 定義.....	5
第3章 文献考証.....	6
第1節 時間的展望.....	6
第2節 重要な他者.....	7
第3節 時間的展望と(重要な)他者.....	8
第4章 目的.....	10
第5章 方法.....	11
第1節 対象者.....	11
第2節 調査方法.....	11
第3節 尺度.....	11
(1) 時間的展望体験尺度.....	11
(2) 重要他者の意味尺度.....	12
第4節 分析方法.....	12
第6章 結果.....	13
第1節 時間的展望.....	13
(1) すべての対象者の属性比較.....	13
(2) 展望型別に分けたときの属性比較.....	14
第2節 重要な他者.....	15
第3節 時間的展望と重要な他者の関連.....	16
(1) 時間的展望得点を基準とした群別比較.....	16
(2) 時間的展望の展望型別比較.....	17
第7章 考察.....	19

第8章 結論	22
第9章 要約	23
倫理的配慮	25
謝辞	26
参考文献	27
Summary	30
質問紙	31
時間的展望体験尺度の回答割合	35

第1章 緒言

現在の日本の失業率は依然として高い値を示し、同時にニートやフリーターの数が増加し大きな社会問題となっている。大学への進学率は半数を越え、大学を卒業している事が就職に有利になる時代ではなくなった。さらに経済状況の不安定さなど、先の見えない社会によって進学後の自分の将来像を描く事が難しく、目標が定まらないという現状を生み出している。人は目的があれば、それに到達するための目標を設定し進んでいく事が出来る。しかし、明確な目的がない中では目標設定が困難で進む事ができない。このような見通しのつかない状況が現代の大学生にあるのではないだろうか。

人間は過去から現在を、現在から未来を見通し、調整や予測をしながら行動している。そうした見通しは、時間的展望という用語を用いて定義付けされている。時間的展望とは「ある一定の時点における個人の心理的過去、および未来についての見解の総体」であり、人間の現在の行動は過去や未来から大きな影響を受けており、青年期は時間的展望が拡大する時期であるとともに再構築しなければならない時期である¹⁰⁾。なぜなら、青年期は人生の重要な分岐点になるライフ・イベントが次々と生じる時期であるため、人生を切り開くために時間的展望も大きく変化するからである²²⁾。時間的展望は自我同一性³¹⁾や精神的健康⁵⁾、ライフスキル²⁷⁾などとの関連が報告されている。これまで個人内における時間的展望と他の関連要因が検討され明らかにされてきたものの、個人の時間的展望に対する他者の役割が明かされていないことが課題として挙げられている¹²⁾。

また先行研究によってスポーツ活動に参加することによって養うことが出来る能力は日常生活場面に置き換えることの出来る能力であるとされ、ライフスキルの獲得に関与する活動であると考えられている。中でも目標設定スキルの獲得は時間的展望の発達に影響する可能性が指摘されている³²⁾。したがって本研究ではスポーツ活動への参加が頻繁である体育系大学生に着目したい。

時間的展望のうち未来に関する未来展望と意味ある他者 (Significant Others) の存在との関連³⁾を調査した研究がある。その結果によると、人は出会う数ではなく「尊敬する」「頼りにする」などの多くの側面において意味を持つ他者と出会うことが未来展望とより関連していることを示唆している。しかし、未来展望に限定した内容であり時間的展望のうちの過去や現在展望との関連を明らかにしたものは見当たらない。他者についてはソーシャル・サポート研究において多く取り扱われている。大学生の生活満足度には家族や同性の友人によるサポートよりも異性の友人からのサポートが重要であることが示唆されて

いる³⁵⁾。また重要な他者 (Important Others/Significant Others) に関する研究では、安心して自己開示できる重要他者は「友人」である事が明らかにされている³⁾。

時間的展望研究の先行研究によって過去や現在、未来が相互に影響し合っている事や未来展望と他者との関連が述べられているが、過去・現在・未来のすべてを含めた視点から他者との関係に着目したものは極めて少ない。時間的展望が過去から現在、現在から未来への見通しであるとするならば、進路決定自己効力²²⁾と関連があることから、学校教育におけるキャリア教育や進路相談のための一助となり得ると考えられる。さらに時間的展望にどのような重要な他者が関連しているのか明らかにすることで、周囲からの支援に活かすことができると考えられる。

第2章 概念規定

第1節 時間的展望

(1) 概念の登場

時間的展望 (time perspective) は、Frank によって最初に理論化された心理学的概念である。Frank は文化的に決定された時間性 (temporality) に対する態度、過去や未来との間にある相互作用が、現在の人間の行動に大きく影響を及ぼすと主張した。人間の発達における素朴な行動から行為への移行は、時間的展望と価値的行動が必要であると述べられている。さらに時間的展望は現在の直接的な刺激情報からの自由を意味し、同時に未来の事象を予め備えることで未来からの不安から解放され、過去の事象を想定し客観的に問い直すことによって過去の捕われから解放されるとした。そのため個人の自由と幸福の実現に関連していると考えられている²⁾。

心理学的過去及び未来を含む時間的展望は要求水準や気分、構成度、さらに個人のリーダーシップに関して、非常に重要であることが示されている。Lewin は、Frank の概念を場の理論に組み入れた。個人の行動は現在の事態に依存するものではなく、希望や願望、また自分の過去の見解によって影響されるとした。さらに個人の志気や幸福は、現在の快・不快よりも未来への期待に依存するところが多いことも述べている。時間的展望は連続的に変化するものであり、個人の発達に伴って拡大し、現在の行動に影響する。子どもでも将来の夢について思い描くが、これはその事象を実現させるための過程を含んだものではない。つまりそれは遠い未来に対する理想であって、現実目標とは言い難いのである。青年期は現実と非現実との分離がされるようになり、時間的展望に関して特に深刻な変化の時期であるといえる¹⁰⁾。

(2) 概念の構造

時間的展望は time perspective の訳語であるが、研究者によって time orientation や temporal orientation などという用語を使用することもある。様々な用語が存在し、それぞれが微妙に異なる意味合いを持ったまま統一されることなく用いられてきたことで、現在でも曖昧な状態が続いている。時間的展望の定義として最も採用されているものは「ある一定の時点における個人の心理的過去、および未来についての見解の総体¹⁰⁾」である。Lewin は時間的展望が過去と未来の双方を含む概念であることを主張し、定義した。勝俣は、それまで過去・現在に関して「展望 (perspective)」という用語が適用されていない

ことを指摘し、「展望 (perspective)」が日本語・英語ともに「見渡す」という意味が基本にあることから、すべての時間的次元に「展望 (perspective)」という概念を適用することが可能であると述べた⁸⁾。さらに勝俣は過去展望を「すでに経験した過去の出来事や状態に対する現在からみた個人ないし集団・社会の認知様式であるとともに、時間的空間における過去の定位/指向性、広がり、内容の明細度、重要度及び感情調の統合の様態であり、feedback 機構を含む⁸⁾」と定義した。研究者によっては、時間的展望の研究対象を未来に限定している。未来を強調する場合「未来展望 (future time perspective)」という用語が用いられる。時間的展望には、個人が自己の過去や未来にどのような出来事を想起するかという認知的側面と、個人が自己の過去や未来に対してどのような感情を抱いているかという情緒的(態度的)側面の2つが含まれている³⁰⁾。時間的範囲の長さや年数を指標として表す **extension** (広がり)、予想する出来事や経験の数から表す **density** (密度)、時間的範囲における出来事の組織化の程度を表す **coherence** (一貫性)、過去・現在・未来のどの時間的領域に対する指向性が強いかを表す **direction** (方向)、これら4つが認知的側面であると考えられている。これに対して情緒的側面は、過去・現在・未来がどの程度関連し、統合され捉えられているかを指す **time relatedness** (時間関連性)、時間経過についての感覚を示す **directionality** (方向性)、過去と現在や未来と現在の主観的評価の差を表す **personal time perspective** (個人的な時間的展望)、時間不安や時間能力などを含む **time attitude** (時間的態度)、未来における出来事の主観的意味や満足度を表す **affective meaning** (情緒的意味) などがある。

(3) 定義

本研究においては、時間的展望 (**time perspective**) を「ある一定の時点における個人の心理的過去、および未来についての見解の総体 (Lewin,1951)」と定義する。また時間的展望が過去・現在・未来を包括する概念であるとする。

第2節 重要な他者

(1) 概念

人間は他者の評価基準に合うよう行動を修正することや、他者の考え方を自分の中に取り入れようとする。そういった行為によって、ある特定の他者が個人の中で意味を持つこととなる。そうした人物は **significant others** (意味ある他者又は重要な他者) と呼ばれ、

様々な研究がなされている。**significant others** について大きくは2つの側面からの定義の仕方がある。一つは自己形成に影響を及ぼす役割を持つ他者であるということである。個人のパーソナリティや態度、価値規範などの形成や変化に対して大きな影響を及ぼした人物であることが共通している。このような **significant others** の捉え方は社会学の分野に多いことが示されている。社会科学の分野では、他者や集団、社会システムを含む生活環境が個人の人格や態度、価値観、自己概念などの形成にどのような影響を与えているかを問題としている。その問題の中で他者が個人に影響を与えている場合、その他者を **significant others** としているのである。そしてもう一つの定義の仕方として、情緒的な関わりの強い他者としての定義がある。**Significant others** として情緒的関わりの強い他者をあげる場合、その分野は臨床心理学と関わることが多く、この分野では特に個人の感情や気分には大きな影響を及ぼす人物を **significant others** としていることが明らかとなっている⁶⁾。

(2) 定義

significant others はその訳語が多く存在している。研究者によって「意味ある他者」「重要他者」などと表記する場合があるが、本研究において **significant others** は「重要な他者」と統一する。さらに重要な他者とは「対人関係において、その人の態度や意見、行動が個人における判断の根拠となるような影響力のある他者」と定義する。

第3章 文献考証

第1節 時間的展望

Lewinによって定義された時間的展望は、人間が現在の行動を自らの経験や今後の未来を想定しながら決定していく、いわゆる見通しである。したがって人間の現在の行動は過去や未来から大きな影響を受けているといえる。Lewinはこの時間的展望が青年期に拡大し、再構築されなければならないと述べている¹⁰⁾。これに関して白井は、青年期は人生の重要な分岐点になるライフ・イベントが次々と生起する時期であるため、人生を切り開くために時間的展望も大きく変化するとしている²⁰⁾。青年期には学業を終え、就職や結婚などといったこれまで経験したことのない事柄がより身近になる。それは年齢を重ねることにより遠くの未来を考えられることや、社会的にそうした立場になることが原因であるといえる。

都筑は青年期における時間的展望の発達、アイデンティティの発達と深く関わっているとし、重要な発達課題のひとつに挙げている。都筑による調査によって青年の多くは自己の未来を最も重要なものとして位置づけていることが示されている²⁹⁾。日瀧らは、高校生は過去や現在をポジティブに捉えている反面、未来を指向することに心理的負担を感じていると示唆した。その上で、大学生は過去や現在に対してネガティブな態度を示しているとしても未来を考えることに関して高校生とは心理的に異なることを示唆している⁵⁾。これは青年期の中でも、大学生の方がより未来へのリアリティも高まり、より現実的に捉えることが出来ることを示唆しているものともいえるだろう。大学生にとっての進路決定はそれまでの進路とは違い、これからの人生を大きく左右するものである。したがって進路を決定するという近未来への考えとともに、自分が将来働いている状況までも考えなければならない。また自身のこれまでを振り返り、適性職種を選択する必要がある。大学生にとって就職は人生における大きな出来事であると考えられる。富安は進路決定における自己効力（成果を生み出すための行動をどの程度実行できるかの確信度）と時間的展望の関連を、大学生を対象として調査している²⁸⁾。その結果、時間的展望が過去から現在、現在から未来へと展開しているほど、進路決定自己効力は高いことが明らかにされている。さらに未来イメージに関しても同様に相乗効果を見せていることが分かっている。

上野は運動部への参加を通じたライフスキルに対する信念（スポーツ経験を通じて獲得可能であるとする心理社会的能力は、日常生活に般化可能であるとする信念）の形成と時間的展望の関係を検討している³³⁾。調査は高校時代に運動部に所属していた大学生を対象

とし、質問紙によって行った。その結果ライフスキルに対する信念の形成は運動部活動経験に対する肯定的解釈を通じて、時間的態度の肯定的変容に関係していたことが明らかとなっている。つまり運動部活動経験の意義を自らの人生全体の中で位置づける視点の獲得によって時間的展望の獲得へとつながっていると示唆されたのである。スポーツ活動では日頃の生活場面よりも劣等性に直面する機会が増える。こうした否定的な経験を受容しつつ、その経験に肯定的な意味を見出す心理的強さが求められることで、時間的展望の獲得が促進されると指摘されている。上野の結果や推察からすれば、高校時代だけでなく大学生になった後も運動部活動やスポーツを継続することで、そうした経験のない者よりも時間的展望がより獲得できる、もしくはできている可能性があるといえる。したがって、本研究では大学生になった後も、運動部活動やスポーツを継続して行っている者に着目したい。

これまで様々な実証的研究がされてきた時間的展望研究であるが、奥田はこれらをまとめ問題点を示している¹²⁾。一つは時間的展望が過去・現在・未来をひとつのつながりとして考えているにもかかわらず、過去展望に関する研究が不足している点である。二つ目に過去展望が未来展望に付随するものとして扱われてきた点、三つ目には過去と現在、現在と未来がどのように関係し合っているのか、各時制間の関係性がメインとなる研究が少ない点。そして最後に個人内での展望を問題にするものが多く、他者という視点を取り込んだ研究が少ないという点である。

第2節 重要な他者

ある特定の他者が個人の中で意味を持つとき、そのような他者を重要な他者(重要他者)もしくは意味ある他者と呼ぶ。自分自身について他者によく話すことを自己開示と呼び、よく自己開示する人ほど精神的に健康であることが明らかになっている。天野らは、自己開示性と重要他者との関係を、女子短期大学生を対象として調査している¹⁾。青年期にある大学生において、すべての項目で一番自己開示できる相手は友人であったことを示している。自己開示することが精神的健康に影響を及ぼすことから、精神的健康を維持・増進するために自己開示できる相手を見付けることが必要であると考えられる。このようなことから天野らは自己開示できる人々に出会えるよう、周囲の大人が支援する必要性を述べている。

重要な他者との関係について、アイデンティティ発達に深い関わりを持つことは多くの

研究によって立証されている。永田らは「重要な他者との関係を通して構築される他者との関係の中での個人のあり方」を関係性と定義し、重要な他者との間で構築される関係性の発達について検討している¹¹⁾。それにより主体的位置づけを経た結果、構築された新たな関係性は、個人内や重要な他者との関係に反映されるだけでなく、他者一般に広く普遍化される特質を持つことを明らかにしている。また、重要な他者との関係が社会的文脈の中でのアイデンティティ形成のもっとも基本的な単位であると同時に、全体的問題にもつながる重要な役割を持っていることが示されている。つまり、重要な他者と自分自身との間に生じた関係を、個人が意味のある出来事やつながりとして位置づけることや、積極的に重要な他者と関わるのがアイデンティティ発達に重要な意味を持つといえる。

第3節 時間的展望と（重要な）他者

時間的展望のうち未来に関する領域である未来展望について多くの研究がある。重要な他者との関連を検討した研究の多くは未来展望との関連を検討している。比嘉らは、意味ある他者（Significant Others）の存在と大学生の未来展望との関連について調査している³⁾。その結果、未来をポジティブに捉えている者はそうでない者よりも、実際に自分が将来行おうと思われる事柄を具体的に思い描いていることが明らかにされている。また、未来展望に影響を与えるのは、他者と数多く出会うということではなく、「尊敬する」「頼りにする」といったような多くの側面において意味ある他者と出会うことであった。単に誰かと出会うだけでは、重要な他者になることはなく、自分の中で他者に何かしらの意味や役割付けすることで意味のある重要な人物になると考えられる。同様の結果を比嘉らは、面接調査によって検討している⁴⁾。未来展望と重要な他者との関係について、重要な他者と出会うことのみではなく、それを契機として他者との関係に意味づけを行っていくことが重要であることを示唆している。

當山は将来の夢や就きたい職業といった将来展望が、学習意欲を喚起する要因となるのかを高校生を対象として検討している²⁷⁾。それによれば、目標を持つことで学習の動機づけになることが再確認され、その目標は遠いものではなく近い目標が有効であることが示唆されている。未来へ明るい展望を持っている者は過去や現在のイメージが良いものでなくても、学習自体に意義を見出していることも明らかにしている。将来への目標は集団の中に属する自分と他の人々との関係性の中から決定されていく。したがって、たとえ現時点で未来に明るい展望が描けないとしても、教員や友人からの支援によって学習意欲を高

めていくことが可能であり、そうした介入が効果的であると示唆している。学習に関しては、大部分が学校で行うため「教員」や「友人」が支援者として効果的であると考えられる。佐藤らは、大学生の時間的展望における生活行動項目の認識度において、肯定的な回答の割合が多かった上位 5 項目のうち、「他者への配慮」の要素が含まれたものが高得点だったことを示している。これは大学生が自分だけでなく、周囲の状況や人間関係を考慮した上で意思決定がなされていると示唆している¹⁶⁾。

時間的展望研究の先行研究によって過去や現在、未来が相互に影響し合っている事や未来展望と他者との関連が述べられているが、過去・現在・未来のすべてを含めた視点から他者との関係に着目したものは極めて少ない。時間的展望が過去から現在、現在から未来への見通しであるとするならば、進路決定自己効力²²⁾と関連があることから、学校教育におけるキャリア教育や進路相談のための一助となり得ると考えられる。さらに時間的展望にどのような重要な他者が関連しているのか明らかにすることで、周囲からの支援に活かすことができると考えられる。

第4章 目的

スポーツ活動における目標設定スキルの獲得は、時間的展望の発達に影響することが明らかにされているため、スポーツ活動への参加が頻繁であると考えられる体育系大学生に着目し、時間的展望の実態を把握することを目的とする。さらに未来展望だけでなく、過去・現在・未来の3領域を含めた時間的展望と重要な他者との関連を検討することを目的とする。

第5章 方法

第1節 対象者

先行研究³²⁾³³⁾で述べられているように、日常生活で得られるライフスキルはスポーツ活動によって得られることや、ライフスキルと時間的展望の関連の可能性が示唆されている。したがって、スポーツ活動をより日常的に行っていると考えられる体育系大学生を対象者とした。また、自分自身のこれからの進路や将来設計をより身近に捉えていることが想定されるため、学年を3・4年と限定した。

体育大学であるA大学3・4年生186名を対象に調査し、そのうち有効回答数は169名(90.8%)だった。男子105名、女子64名であり、平均年齢は20.81歳(±0.79歳)だった。比較対象として様々な学部を有するB大学3・4年生159名に調査を実施し、有効回答数は150名(94.3%)だった。男子80名、女子70名で平均年齢は20.6歳(±0.69歳)だった。

第2節 調査方法

質問紙によるアンケート調査を行う。アンケート実施の際には、調査票を一斉配布し、その場で回答してもらい、回収した。調査票の内容は対象者に関する項目(学年や性別)と、時間的展望に関する項目は時間的展望体験尺度を用いた。重要な他者に関する項目は対象者に「これまでの人生においてあなたに影響を与えた人物を3人選択してください」と提示し、父親・母親・兄弟・姉妹・祖父・祖母・親戚・恋人・友達・先輩・後輩・教師・タレント・その他の選択肢の中から3人選択し、そのそれぞれの人物について重要他者の意味尺度を用いた。

第3節 尺度

(1) 時間的展望体験尺度

時間的展望をはかるための尺度は多くの研究者によって様々な方法が開発されている。時間的展望をはかる尺度は未来や現在に関する項目のみ、あるいは過去についての項目が成立していない状態にある。そのため過去・現在・未来がどのように相互に関連し、現在に影響を及ぼしているのか測定する方法がなかった。白井によって開発された時間的展望体験尺度¹⁹⁾は、「毎日の生活が充実しているか」などの項目からなる「現在の充実感」因子、「私には、だいたいの将来計画がある」などの「目標指向性」因子、「過去のことはあ

まり思い出したくない（逆転項目）」などの「過去受容」因子、「私には未来がないような気がする」などの「希望」因子といった4つの下位因子からなる尺度を作成している。項目数は18項目で、各項目は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらともいえない」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の5段階によって評定される。集計時には順に5点-1点と得点化する。

（2）重要他者の意味尺度

石井らは、定義の整理によって2つの相互に関連する重要性があるとした。さらに質問紙調査によって、具体的意味内容を抽出しその結果をもとに重要他者の意味尺度⁹⁾を作成している。定義によって確認された2つの重要性である「自分の心の支えになっている」など13項目を情緒・動機関連尺度、「その人の意見は自分の意見の基となっている」など7項目を価値観・行動への影響尺度として下位尺度を構成している。各項目は「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらともいえない」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の5段階によって評定される。集計時には順に5点-1点と得点化する。

第4節 分析方法

時間的展望の実態を把握するために大学別・男女別に平均値を比較した。さらに下位因子間の相関係数を算出し、過去・現在・未来の関連について検討した。時間的展望および重要な他者に関する各項目の得点を算出し、分析ソフト（SPSS ver.15）を用いて分析した。時間的展望の得点によって重要な他者に関する得点との間に違いがあるかを検討するために、時間的展望得点を基準として人数が等しくなるように3群に分け、分散分析および相関係数の算出を行った。また、時間的展望の下位因子得点の中で最も得点の高いものによって、過去展望型、現在展望型、未来展望型⁹⁾に分類した。なお、4得点のうち目標指向性得点および希望得点が同点で最高得点の場合は未来展望に分類したが、最高得点が多数あり、複数の展望に属している対象者は除いた。各展望型に分類した場合も同様に、分散分析、相関係数を算出した。

第6章 結果

第1節 時間的展望

時間的展望に関する項目は、すべての項目を合計し平均値化した時間的展望得点と尺度の作成者によって分けられた下位因子の項目ごとに分け、平均値を算出し、そのそれぞれを「現在の充実感」得点、「目標指向性」得点、「希望」得点、「過去受容」得点とした。

(1) すべての対象者の属性比較

それぞれの得点の平均値を男女別にわけ、差の検定を行った。過去受容得点、現在の充実感得点は女性の得点が有意に高かった。目標指向性得点については男性の得点が有意に高くなっていた。希望得点に差はみられなかった。

次に大学別に比較したところ、過去受容得点以外のすべての得点において有意な違いがあることが示された。A大学の得点がB大学の得点を上回っていることからA大学の得点はB大学の得点よりも有意に高いといえる。A大学を男女別に比較すると、全体の男女別比較と同様に過去受容得点および現在の充実感得点は女性が、目標指向性得点は男性が有意に高い値を示していた。B大学は性別による差はみられなかった。

表1. 時間的展望 属性比較

		A大学			B大学			全体		
		男 n=105	女 n=64	計 n=169	男 n=80	女 n=70	計 n=150	男 n=185	女 n=134	計 n=319
時間的展望	M	3.48 ^{***4)}	3.51 ^{**5)}	3.49 ^{**2)}	3.20	3.26	3.23	3.36	3.38	3.37
	SD	0.55	0.54	0.55	0.52	0.53	0.53	0.56	0.55	0.55
過去受容	M	3.29	3.50 ^{*3)}	3.37	3.32	3.38	3.35	3.30	3.44 ^{*1)}	3.36
	SD	0.58	0.60	0.59	0.64	0.54	0.59	0.60	0.57	0.59
現在の充実感	M	3.22 ^{***4)}	3.55 ^{*3)5)}	3.34 ^{*2)}	3.05	3.23	3.13	3.14	3.38 ^{*1)}	3.25
	SD	0.89	0.87	0.89	0.74	0.87	0.81	0.83	0.88	0.86
目標指向性	M	3.66 ^{*3)}	3.35	3.54 ^{**2)}	3.20	3.17	3.18	3.46 ^{*1)}	3.25	3.37
	SD	0.76	0.90	0.83	0.81	0.79	0.80	0.82	0.85	0.83
希望	M	3.79 ^{***4)}	3.67 ^{**5)}	3.74 ^{**2)}	3.30	3.27	3.29	3.58	3.46	3.53
	SD	0.71	0.72	0.71	0.82	0.78	0.80	0.80	0.78	0.79

1) : 全体の男女別 2) : A大学とB大学 3) : A大学の男女別 4) : 各大学の男性 5) : 各大学の女性 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

時間的展望、重要な他者に関する得点の平均値について相関係数を算出した。現在の充実感得点および目標指向性得点は希望得点との間に中程度の相関が見られた。しかし、希望得点と共に未来の領域に属する目標指向性得点は現在の充実感得点との間に同様の相関

はみられなかった。

表2. 時間的展望の相関係数

		時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性
過去受容	A	0.459			
	B	0.420			
	全	0.432			
現在の充実感	A	0.774	0.263		
	B	0.723	0.166		
	全	0.754	0.220		
目標指向性	A	0.720	0.085	0.259	
	B	0.747	0.173	0.218	
	全	0.746	0.126	0.260	
希望	A	0.805	0.214	0.506	0.552
	B	0.797	0.076	0.480	0.554
	全	0.812	0.144	0.502	0.578

(2) 展望型別に分けたときの属性比較

時間的展望体験尺度には4つの下位因子があり、過去受容得点(過去)、現在の充実感得点(現在)、目標指向性得点(未来)、希望得点(未来)の内もっとも点数の高いものによって、過去展望型、現在展望型、未来展望型に分類した。なお、4得点のうち目標指向性得点および希望得点が同点で最高得点の場合は未来展望型に分類したが、最高得点が多数あり、複数の展望に属している対象者は除いた。

過去展望型、現在展望型、未来展望型のそれぞれを男女別・大学別に平均値を比較した。過去展望型では、男女別、大学別、男性同士、女性同士すべてで有意な差はみられなかった。現在展望型は男女別に比較すると、過去受容得点および目標指向性得点において女性の得点が有意に高い値であった。大学間での比較では現在展望型の過去受容得点に差がみられA大学が高い得点であり、B大学や男性、女性で分類した場合でも他の下位因子得点よりも特に高かった。未来展望型では、他の展望型よりも希望得点が高くなっていた。

表3-2. 時間的展望の現在展望型 属性比較

		A大学			B大学			全体		
		男 n=11	女 n=16	計 n=27	男 n=12	女 n=17	計 n=29	男 n=23	女 n=33	計 n=56
時間的展望	M	3.72 ^{**4)}	3.71	3.71 ^{***2)}	3.07	3.44 ^{*3)}	3.29	3.38	3.57	3.49
	SD	0.45	0.42	0.42	0.41	0.45	0.47	0.54	0.45	0.49
過去受容	M	4.22 ^{*4)}	4.39	4.32 ^{**2)}	3.58	4.09 ^{**3)}	3.88	3.89	4.24 ^{*1)}	4.09
	SD	0.58	0.53	0.54	0.51	0.42	0.52	0.62	0.49	0.57
現在の充実感	M	3.53 ^{**4)}	3.05	3.24	2.70	3.00	2.88	3.10	3.02	3.05
	SD	0.52	0.92	0.81	0.58	0.73	0.67	0.68	0.82	0.76
目標指向性	M	3.34	3.59	3.49	2.98	3.46 ^{**3)}	3.26	3.15	3.52 ^{**1)}	3.37
	SD	0.53	0.50	0.52	0.63	0.25	0.50	0.60	0.39	0.52
希望	M	3.70 ^{**4)}	3.81 ^{**5)}	3.77	2.98	3.18	3.09	3.33	3.48	3.42
	SD	0.58	0.65	0.61	0.46	0.68	0.60	0.63	0.73	0.69

1) : 全体の男女別 2) : A大学とB大学 3) : B大学の男女別 4) : 各大学の男性 5) : 各大学の女性 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表3-3. 時間的展望の未来展望型 属性比較

		A大学			B大学			全体		
		男 n=67	女 n=24	計 n=91	男 n=38	女 n=30	計 n=68	男 n=105	女 n=54	計 n=159
時間的展望	M	3.53	3.53	3.53*2)	3.43	3.26	3.36	3.49	3.38	3.46
	SD	0.51	0.42	0.48	0.43	0.56	0.50	0.48	0.52	0.50
過去受容	M	3.13	3.26	3.16	3.09	2.94	3.03	3.12	3.08	3.10
	SD	0.79	0.72	0.77	0.68	0.77	0.72	0.75	0.76	0.75
現在の充実感	M	3.84	3.68	3.80	3.68	3.47	3.59	3.78	3.57	3.71
	SD	0.65	0.50	0.62	0.72	0.84	0.78	0.68	0.71	0.70
目標指向性	M	3.18	3.28	3.21	3.16	3.15	3.16	3.18	3.21	3.19
	SD	0.58	0.66	0.60	0.61	0.53	0.57	0.59	0.59	0.59
希望	M	3.99	3.92	3.97**2)	3.81*3)	3.53	3.68	3.92*1)	3.70	3.85
	SD	0.60	0.62	0.60	0.59	0.79	0.70	0.60	0.74	0.66

1) : 全体の男女別 2) : A大学とB大学 3) : B大学の男女別

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

第2節 重要な他者

対象者によってもっとも選択された重要な他者は、教師であり A 大学、B 大学に分けた場合も同様の結果であった。どちらの大学においても、男性は教師を重要な他者として選んでいる割合が他よりも圧倒的に多い。しかし、女性においては教師と同程度の割合で両親のどちらかを重要な他者として選択していた。

表4. 選択された重要な他者

重要な他者	性 n	A大学			B大学			全体		
		男 303	女 191	計 494	男 239	女 205	計 444	男 542	女 396	計 938
教師		25.7%	22.0%	24.3%	25.5%	20.0%	23.0%	25.6%	21.0%	23.7%
母親		18.2%	22.0%	19.6%	12.6%	19.5%	15.8%	15.7%	20.7%	17.8%
友達		20.5%	16.2%	18.8%	17.2%	9.3%	13.5%	19.0%	12.6%	16.3%
父親		10.2%	17.3%	13.0%	17.2%	21.5%	19.1%	13.3%	19.4%	15.9%
先輩		10.6%	5.2%	8.5%	7.9%	7.3%	7.7%	9.4%	6.3%	8.1%
恋人		2.3%	4.7%	3.4%	3.3%	6.3%	4.7%	2.8%	5.6%	3.9%
姉妹		5.3%	3.1%	4.5%	2.9%	3.4%	3.2%	4.2%	3.3%	3.8%
兄弟		0.3%	3.7%	1.6%	0.8%	6.3%	3.4%	0.6%	5.1%	2.5%
祖母		2.6%	1.0%	2.0%	3.8%	2.0%	2.9%	3.1%	1.5%	2.5%
タレント		1.0%	1.6%	1.2%	1.3%	2.9%	2.0%	1.1%	2.3%	1.6%
その他		1.7%	1.6%	1.6%	1.7%	1.0%	1.4%	1.7%	1.3%	1.5%
祖父		1.0%	0.5%	0.8%	2.1%	0.5%	1.4%	1.5%	0.5%	1.1%
後輩		0%	0%	0%	3.3%	0%	1.8%	1.5%	0%	0.9%
親戚		0.7%	0.5%	0.6%	0.4%	0.0%	0.2%	0.6%	0.3%	0.4%

第3節 時間的展望と重要な他者の関連

時間的展望体験尺度から得られた時間的展望得点と4つの下位因子得点と重要な他者の意味尺度から得られた3つの得点の関連を相関係数によって検討した。重要な他者に関する項目は、対象者によって選択された重要な他者に対する重要な他者の意味尺度の合計得点と各下位尺度に該当する項目の平均値を算出し、「情緒・動機」得点と「価値観・行動」得点とした。なお、選択された他者に対する合計得点を、対象者が選択したすべての重要な他者に対する得点とするために、合計得点の平均値を算出した。重要な他者に関する項目から得られた3つの得点は、時間的展望得点と有意な相関係数が得られた。

表5. 時間的展望と重要な他者の関連（全体の得点）

	時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性	希望
重要な他者	0.274	0.195	0.193	0.191	0.202
情緒・動機	0.257	0.217	0.173	0.164	0.193
価値観・行動	0.254	0.117	0.192	0.205	0.179

(1) 時間的展望得点を基準とした群別比較

時間的展望得点を基準として人数が等しくなるように3群に分け、4.78点—3.67点を高得点群、3.61点—3.17点を中間得点群、それ以下を低得点群とした。

分散分析の結果、重要な他者に関する得点において高得点群と中間得点群は低得点群との間に有意な差が認められた。時間的展望の低得点群では、重要な他者に関する各得点も低い値を示した。

表6. 各得点群の平均値および標準偏差と分散分析の結果

	時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性	希望	重要な他者	情緒・動機	価値観・行動
高得点群	M 3.99	3.67	3.98	4.06	4.26	77.36	4.00	3.63
n=99	SD 0.28	0.49	0.68	0.63	0.47	12.51	0.66	0.68
中間得点群	M 3.39	3.34	3.27	3.40	3.57	75.41	3.89	3.55
n=115	SD 0.14	0.55	0.56	0.59	0.51	9.44	0.51	0.57
低得点群	M 2.76	3.08	2.53	2.70	2.79	70.79	3.65	3.34
n=105	SD 0.29	0.58	0.68	0.68	0.59	13.73	0.74	0.70
高一中	***	***	***	***	***			
高一低	***	***	***	***	***	***	***	**
中—低	***	**	***	***	***	*	*	*

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

それぞれの得点群ごとに相関係数を算出したところ、高得点群においてのみ、時間的展

望得点と重要な他者に関するすべての得点との間に中程度の相関を示した。

表7. 時間的展望と重要な他者の相関係数

	時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性	希望
重要な他者	高	0.374	0.265	0.204	0.090
	中	0.059	0.007	0.101	-0.041
	低	0.080	0.108	-0.077	0.120
情緒・動機	高	0.332	0.266	0.187	0.036
	中	0.041	0.091	0.093	-0.100
	低	0.043	0.112	-0.117	0.113
価値観・行動	高	0.386	0.218	0.201	0.171
	中	0.073	-0.134	0.087	0.068
	低	0.140	0.083	0.015	0.113

高得点群の対象者が選択した重要な他者を集計した結果、選択された他者 291 人のうち 76 人 (26.1%) が「教師」であり最も多かった。次いで多かったのは「母 (18.6%)」で、その後「父 (15.8%)」、「友達 (14.1%)」だった。

中間得点群において選択された重要な他者は、最も多く選択されたのは「教師 (22.0%)」であり、次いで多かったのは「母 (18.8%)」で高得点群と同様の結果であった。中間得点群では「母」の次に「友達 (17.0%)」「父 (16.4%)」で、高得点群よりも両親や友達を選択する割合が多くなっていた。

低得点群の選択された他者は「教師 (20.8%)」、「父 (15.0%)」、「友達 (14.7%)」、「母 (14.1%)」だった。

表8. 各得点群に分けたときの選択された重要な他者の割合

順	高得点群			中間得点群			低得点群		
	人	数	%	人	数	%	人	数	%
1	教師	76	26.1%	教師	75	22.0%	教師	75	22.0%
2	母	54	18.6%	母	64	18.8%	父	53	15.5%
3	父	46	15.8%	友達	58	17.0%	友達	52	15.2%
4	友達	41	14.1%	父	56	16.4%	母	49	14.4%

(2) 時間的展望の展望型別比較

過去展望型の重要な他者に関する得点は、現在展望型・未来展望型に比べ特に低い値を示していた。各展望型の得点を分散分析にかけた結果、重要な他者に関する得点は過去展望型と現在展望型の平均値間に有意な差がみられた。また現在展望型と未来展望型の重要な他者に関する得点に差はみられなかった。

表9. 各展望型の平均値および標準偏差と分散分析の結果

	時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性	希望	重要な他者	情緒・動機	価値観・行動
過去展望	M 2.91	3.63	2.66	2.71	2.75	69.44	3.61	3.21
n=71	SD 0.76	0.80	0.96	1.01	0.90	13.54	1.00	0.94
現在展望	M 3.45	3.34	4.05	2.97	3.39	74.63	3.89	3.44
n=56	SD 0.49	0.52	0.57	0.76	0.69	11.23	0.61	0.61
未来展望	M 3.45	3.20	3.12	3.69	3.84	72.67	3.74	3.44
n=159	SD 0.50	0.59	0.75	0.70	0.66	11.78	0.62	0.67
過と現	***	**	***		***	*	*	*
現と未			***	***	***			
過と未	***	***	***	***	***			

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

各展望型の相関係数を算出した結果、現在展望においては時間的展望の各得点と重要な他者得点および情緒・動機得点との間に中程度の相関が見られた。過去展望型、未来展望型の相関係数は低い値であった。

表10. 展望型に分けたときの相関係数

	時間的展望	過去受容	現在の充実感	目標指向性	希望
重要な他者	過 0.151	0.309	-0.027	0.095	0.167
現 0.416	0.430	0.330	0.342	0.203	
未 0.137	0.117	0.030	0.158	0.108	
情緒・動機	過 0.169	0.324	-0.040	0.129	0.185
現 0.439	0.432	0.335	0.366	0.237	
未 0.130	0.131	0.022	0.125	0.128	
価値観・行動	過 0.093	0.234	0.003	0.013	0.107
現 0.275	0.324	0.242	0.217	0.091	
未 0.120	0.070	0.038	0.181	0.051	

過去展望型、現在展望型、未来展望型それぞれの選択された重要な他者を表に示す。全体での結果と同様に過去展望型、未来展望型では教師を選んでいる対象者が最も多かった。しかし、現在展望型ではこうした結果はみられず、特定の人物が選択されるのではなく多岐にわたった。

表11. 各展望の選択された重要な他者の割合

順	過去展望			現在展望			未来展望		
	人	数	%	人	数	%	人	数	%
1	教師	51	24.4%	母	32	19.3%	教師	116	24.9%
2	友達	40	19.1%	教師	31	18.7%	母	78	16.8%
3	父	35	16.7%	友達	29	17.5%	父	81	17.4%
4	母	34	16.3%	父	26	15.7%	友達	63	13.5%

第7章 考察

対象者全体を男女別に分けた場合、およびA大学を男女別にした場合では、過去受容得点と現在の充実感得点は女性が有意に高かった。これは、本研究の対象者のうち女性は過去を受け止め、現在の生活に充実感を感じていることを示しているといえる。また、目標指向性得点においては男性の方が有意に高い得点だった。本研究における男性は将来に目的や目標を持ち、その目標に向かう傾向があると考えられる。先行研究において、時間的展望に関して男女差は無いとするものが多くあるが、現代の大学生においては本研究で得られたような男女差が生じている可能性がある。

本研究の対象者のうち体育大学であるA大学と多数の学科を有するB大学の得点を比較した。時間的展望の各得点について、過去受容得点を除くすべての得点で有意にA大学の得点が高い値を示していた。上野は目標設定スキルの獲得は時間的展望の獲得に影響を及ぼすことを報告している³²⁾。さらに運動部活動経験に肯定的な意味付けを導くことで時間的展望の獲得に影響を及ぼすと推察している³⁴⁾。本研究において体育大学であるA大学の学生は日常的に運動機会がある。その中で獲得されたスキルによって時間的展望が拡大し、得点が高くなった要因ではないかと考えられる。

時間的展望について各得点から相関係数を算出した結果、現在の充実感得点および目標指向性得点は希望得点と中程度の相関を示していた。現在の充実感得点と希望得点に関連していたことから、本研究における大学生が現在の生活を充実させることで、将来に希望が持てていることや、逆に未来に希望を抱いていることが現在の生活を充実させているというような可能性があると考えられる。しかし、目標指向性得点と現在の充実感得点は低い相関にあることから、将来の具体的な目標や計画があることが現在の生活の充実感には大きく影響していないといえる。現代の大学生は、就職が困難な社会状況にあることから明確な目標や将来像を描くことが難しい。このような社会状況が、低い相関係数に留まった原因であるといえるのではないだろうか。

さらに、実態を把握するために時間的展望の下位因子得点から過去展望型、現在展望型、未来展望型に分類し、比較した。現在展望型の女性において男性よりも過去受容得点、目標指向性得点が高い傾向があった。現在展望型はすでに現在の充実感が高いという前提がある中で、その中でも女性は過去を受け止め、将来への目標や計画を描いていると考えられ、過去から現在へ、現在から未来へと見通しを立てることができている可能性を示唆している。

対象者全体の各得点から相関係数を算出した結果、時間的展望得点と重要な他者に関する3つの得点は、相関係数は高くないものの有意な相関を示していた。したがって、時間的展望と重要な他者との間には関連がある可能性が考えられる。

時間的展望得点を基準として人数が等しくなるように、高得点群、中間得点群、低得点群の3群に分け、分散分析を行ったところ、時間的展望の高得点群では、重要な他者に関する得点が他の群と比べて高いという結果が得られた。さらに相関係数を算出した結果、高得点群の時間的展望得点と重要な他者に関する各得点は有意な相関関係にあった。これは高得点群の対象者は、これまでの人生において重要な他者と出会い、さらにその重要な他者との経験を肯定的に捉えていることで、重要な他者に関する得点が高くなったと考えられる。また高得点群において選択された重要な他者の中では教師が最も多く、中間得点群および低得点群と比較しても高い割合であった。小学校、中学校、高校そして大学と長い学校生活の中では学習や部活動等を通して教師と共有する時間は長い。したがって、教師の役割は重要であると考えられる。

本研究では、時間的展望のもつ過去・現在・未来の領域に分けて分析するために、最も高い値を示した得点によって分類し、分散分析を行った。勝俣は、「展望 (perspective)」という用語が日本語と英語双方に「見渡す」という意味を含んであり、さらに過去、現在についても「展望 (perspective)」という概念が適用されると述べている⁸⁾。したがって、本研究においても過去展望型 (過去受容得点)、現在展望型 (現在の充実感得点)、未来展望型 (目標指向性得点、希望得点) に分類した。

過去展望型は他の展望型と比べ、過去受容得点以外の得点が低い値を示していた。過去受容得点が高いということは過去の出来事を肯定的に受け止めているということである。過去・現在・未来が一連の流れの中にあり²⁾、過去から現在へ、現在から未来へ発展していくと考えると、本研究における過去展望型の対象者は過去の経験を現在や未来と関連させて考えることができていない可能性がある。そうした場合、周囲の人間の支援によって時間的展望がより拡大し、現在や未来へとつなげることができると考えられる。

また過去展望型、現在展望型、未来展望型それぞれの相関係数を算出し、各得点の関連を検討した。現在展望型においては時間的展望の各得点と重要な他者に関する3得点の相関係数は過去展望型および未来展望型よりも高い値を示していた。特に現在展望型における過去受容得点は中程度の相関係数を示しており、重要な他者との過去の出会いや出来事に意味を見出し肯定的に捉えていることが、現在の充実感に関係していると考えられる。

現在展望型の選択した重要な他者は、過去展望型、未来展望型とは違う傾向を示していた。これは現在の充実感が、ある特定の他者から得られるのではなく、現在に関係のある様々な他者から影響を受けながら得られるものであることを示していると考えられる。

富安は、時間的展望と進路決定自己効力は相互規定的であると考え、目標の設定やそのための行動を具体的に考えることを通して時間的展望を持たせ、進路決定自己効力を高められる可能性を述べている²⁸⁾。本研究では時間的展望と重要な他者は関連することが明らかとなり、時間的展望が高い者は重要な他者に意味付けていた。また本研究において、重要な他者として選択された他者のうち最も多かったのは「教師」であった。大学生が現在から過去を振り返った場合、これまで出会った教師との出来事が自分に影響を与えたと認識していることが分かる。以上のようなことから、学校教育におけるキャリア教育や進路相談において、教師の役割が重要であり時間的展望を養うことが効果的であると考えられる。

本研究においては現代の大学生の時間的展望の実態および時間的展望と重要な他者との関連、さらに重要な他者としてどのような人物が選ばれていたのかが明らかにされたにすぎない。今後、より学校現場で活かせる資料とするためには、対象者の人数や属性を考慮し、重要な他者とのどのような出来事が時間的展望に影響を与えているのかを明らかにすることが必要だろう。

第8章 結論

本研究は、体育系大学生に着目し時間的展望の実態を把握することを目的とした。さらに未来展望だけでなく、過去・現在・未来の3領域を含めた時間的展望と重要な他者との関連を検討した。

その結果、本研究における体育系大学生の時間的展望に関する得点は有意に高い値を示していた。また、本研究の対象者のうち女性は過去を受け止め、現在の生活に充実感を感じていることを示し、男性は将来に目的や目標を持ち、その目標に向かう傾向があることが示唆された。

時間的展望と重要な他者は相関関連にあり、過去展望型、現在展望型、未来展望型それぞれが選択した重要な他者は教師、両親、友達が大部分を占めていた。したがって、時間的展望の形成には教師、両親、友達の存在が大きく影響していることが示唆された。中でも、教師は重要な他者として最も選択されていたことから、学校教育における教師の重要性が伺える。

第9章 要約

【背景】

時間的展望は、「ある一定の時点における個人の心理的過去、および未来についての見解の総体」と定義されている。時間的展望のうち未来展望と意味ある他者の存在との関連は調査されている。

時間的展望にどのような重要な他者が関連しているか調査することは、学校教育におけるキャリア教育や進路相談のための一助となり得ると考えられる。また本研究ではスポーツ活動への参加が頻繁である体育系大学生に着目したい。

【目的】

体育系大学生に着目し、時間的展望の実態を把握することを目的とする。過去・現在・未来の3領域を含めた時間的展望と重要な他者との関連を検討することを目的とする。

【方法】

体育大学であるA大学と様々な学科を有するB大学の3・4年生319名を対象に、質問紙によるアンケート調査を行った。質問紙に用いた尺度のそれぞれを得点化し、分析ソフト(SPSS ver.15)を用いて分析した。

【結果および考察】

時間的展望の各得点について、過去受容得点を除くすべての得点で有意にA大学の得点が高い値を示していた。A大学の学生は日常的に運動機会があり、その中で獲得されたスキルによって時間的展望が拡大し、得点が高くなったのではないかと考えられる。得点の平均値の比較によって、本研究の対象者のうち女性は過去を受け止め、現在の生活に充実感を感じていることを示し、男性は将来に目的や目標を持ち、そこに向かう傾向があることが考えられる。

時間的展望について現在の充実感得点および目標指向性得点は希望得点と中程度の相関を示していた。本研究における大学生が現在の生活を充実させることで、将来に希望が持てていることや、逆に未来に希望を抱いていることが現在の生活を充実させているというような作用があると考えられる。

時間的展望得点を基準として人数が等しくなるように3群に分け、分散分析を行ったところ、時間的展望の高得点群では重要な他者に関する得点が高いという結果が得られた。さらに高得点群の相関係数は重要な他者に関する各得点と有意な相関関係にあり、重要な他者との経験を肯定的に捉えていることで、重要な他者に関する得点が高

くなつたと考えられる。

本研究において、重要な他者として選択された他者のうち最も多かったのは「教師」であった。大学生が現在から過去を振り返った場合、これまで出会った教師との出来事が自分に影響を与えたと認識していることが分かる。以上のようなことから、学校教育におけるキャリア教育や進路相談において、教師の役割が重要であり時間的展望を養うことが効果的であると考えられる。

【結論】

体育系大学生の時間的展望に関する得点は有意に高い値を示した。また、女性は過去を受け止め、現在の生活に充実感を感じ、男性は将来に目的や目標を持ち、その目標に向かう傾向があることが示唆された。

時間的展望と重要な他者は相関関連にあり、選択された重要な他者は教師、両親、友達が大部分を占めていた。中でも教師は重要な他者として最も選択されていたことから、学校教育における教師の重要性が伺える。

倫理的配慮

本研究への協力は任意であり、対象者の個人名が特定されないよう統計処理を施した。データは外部に漏洩することのないよう厳重に保管され、研究者以外は閲覧できず本研究の目的のみ使用した。

なお、本研究はヘルシンキ宣言に基づく倫理にしたがってデザインされ、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。

謝辞

本研究を終えるにあたり、ご指導いただきました島内憲夫教授に深く御礼申し上げます。論文の作成にあたり、ご指導いただきました下村義夫教授、牛尾直行准教授に対しても御礼申し上げます。

また、本研究の目的にご賛同いただきご協力いただきました東洋大学斎藤恭平教授、調査対象者としてご協力下さいました東洋大学および順天堂大学の学生の皆様に謝意を表すとともに、多大なるご支援をいただきました健康社会学研究室大学院生の皆様方に心から感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 天野洋子,安里葉子,新城正紀,上田礼子(2001).自己開示性と重要他者との関係—青年期について—.沖縄県立看護大学紀要,2,36-44.
- 2) Frank, L K.(1939).TIME PERSPECTIVES. *Journal of Social Philosophy*, 293-312.
- 3) 比嘉麻美子,高良美樹,岡本祐子(2005).「意味ある他者」の存在と大学生の未来展望との関連.広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要,4,78-89.
- 4) 比嘉麻美子,岡本祐子(2007).信頼感を基盤とした青年の未来展望形成プロセス.広島大学心理学研究,7,227-243.
- 5) 日瀨淳子,斎藤誠一(2007).青年期における時間的展望と出来事想起および精神的健康との関連.発達心理学研究,18(2),109-119.
- 6) 石井辰典,竹澤正哲(2011).重要他者の意味尺度の作成.*The Psychological Report of Sophia University*,35,51-59
- 7) 神田信彦(2010).時間的展望に関する一考察.生活研究,32,91-98
- 8) 勝俣暎史(1995).時間的展望の概念と構造.熊本大学教育学部紀要,人文科学,44,307-318.
- 9) 國眼眞理子(2006).大学におけるキャリア支援を考える—学業満足度および大学生生活の充実度と仕事観、将来展望—.東北公益文科大学総合研究論集,11,87-98.
- 10) Lewin,K.(1951).Field theory and social science. New York:Harper. 社会科学における場の理論(1956).猪股佐登留訳,誠信書房.
- 11) 永田彰子,岡本祐子(2005).重要な他者との関係を通して構築される関係性発達の検討.教育心理学研究,53,331-343
- 12) 奥田雄一郎(2002).時間的展望研究における課題とその可能性—近年の実証的、理論的研究のレビューにもとづいて—.大学院年報（文学研究科篇：中央大学）,31,333-346.
- 13) 奥田雄一郎(2003).時間的展望は人間の過去に対していかにアプローチするか—記憶研究との対比から—.大学院年報（文学研究科篇：中央大学）,32,167-179.
- 14) 奥田雄一郎(2008).大学生の時間的展望の構造に関する研究—過去・現在・未来の満足度の相対的關係に着目して.共愛学園前橋国際大学論集,8,13-22.
- 15) Richard A. Young(1983).Career Development of Adolescents: An Ecological Perspective. *Journal of Youth and Adolescence*,12(5),401-417.
- 16) 佐藤文子,志村結美,深谷純子(2004).時間的展望における自己認識と生活実践.千葉大学教育学部研究紀要,52,103-108.

- 17) 島袋恒男(2007).高校生の意志型・願望型の意味ある他者と進路発達に関する研究.琉球大学教育学部紀要,70,55-68.
- 18) 白井利明(1992).現代青年の時間的展望の構造(3)—時間的展望と時間的指向性の関連—.青年心理学研究,4,1-8.
- 19) 白井利明(1994).時間的展望体験尺度の作成に関する研究.The Journal of Psychology, 65(1),54-60.
- 20) 白井利明(1994).時間的展望の生涯発達に関する研究の到達点と課題.大阪教育大学紀要 第IV部門,42(2),187-216.
- 21) Toshiaki Shirai(1996),Time Perspective and School Types in Different Social Systems:Comparison of Japanese with Belgian Adolescents.大阪教育大学教育研究所報,31,59-73.
- 22) 白井利明(2009).大学から社会への移行における時間的展望の再編成に関する追跡的研究 (VI) —大卒 8 年目のキャリア発達と時間的展望—.大阪教育大学紀要 第IV部門,57(2),101-112.
- 23) 園田直子(2003).大学生の進路決定と現在指向.久留米大学心理学研究,2,63-70.
- 24) 杉山成(1995).時間的展望の関連要因に関する研究の動向.立教大学心理学科研究年報,38,39-52.
- 25) 谷冬彦(1998).青年期における基本的信頼感と時間的展望.発達心理学研究,9(1),35-44.
- 26) 飛永佳代(2007).思春期・青年期における未来展望の様相の発達の検討—「希望」と「展望」という視点から—.九州大学心理学研究,8,165-173.
- 27) 當山明華(2010).高校生の学習の動機づけと将来展望に関する研究.東北大学大学院教育学研究科研究年報,58(2),329-340.
- 28) 富安浩樹(1997).大学生における進路決定自己効力と時間的展望との関連.教育心理学研究,45(3),329-336.
- 29) 都筑学(1984).青年の時間的展望の研究.大垣女子短期大学研究紀要,19,57-65.
- 30) 都筑学(1982).時間的展望の文献的研究.教育心理学研究,30(1),73-86.
- 31) 都筑学(1993).大学生における自我同一性と時間的展望. Japanese Journal of Educational Psychology,41,40-48.
- 32) 上野耕平(2006).運動部活動への参加による目標設定スキルの獲得と時間的展望の関係.体育学研究,51,49-60.

- 33) 上野耕平(2007).運動部活動への参加を通じたライフスキルに対する信念の形成と時間的展望の獲得.体育学研究,52,49-60.
- 34) 上野耕平(2012).運動部活動における生徒の目標設定経験と時間的態度の関係.スポーツ心理学研究,39(1),61-73.
- 35) 吉武尚美(2011).大学生の生活満足度の時間的変化と楽観性、ソーシャルサポート、ライフイベントの関連—ライフスタイルと社会経済的要因を統制して—.PROCEEDINGS,16,89-98.

Relationship between Time Perspective and Significant Others of
the University Students of Sports Science

Natsuko Inomata

Summary

Time Perspective is defined as “the totality of the individual’s views of his psychological future and his psychological past existing at a given time” (Lewin, 1951). Time Perspective is supposed to vary according to diverse social settings. Higa et al (2005) was researched about relationship between Future Time Perspective and Significant Others. It is important to clarify how Significant Others related the development of Time Perspective in adolescents. And the previous study showed that sports activities influenced to the development of Time Perspective. So this study focused on the University Students of Sports Science.

The purpose of this study is investigate the actual conditions of Time Perspective and related to Significant Others.

It was researched by questionnaire investigation. 319 subjects (169 of A university; A, 150 of B university; B) of university student participated in the study. All subjects were in the 3rd and 4th grade. The mean age was 20.7 years (SD=0.75).

It made a comparison between A and B Point and for each showed significantly higher value calculated excluding the Acceptance of past Point. So A’s point was higher than B’s one, and this result showed the previous study the cause of A is the University of Sports Science. The Female was adopted the Past and feel a sense of fulfillment to the Present life. High point group of Time Perspective had a correlation with the Significant Others Point. The Teacher was chosen by the subject as Significant Others the most. It meaning that the Teacher has important role in School Education.

In conclusion, Students the University of Sports Science had broader Time Perspective and suggest that the Female was adopted the Past and feel a sense of fulfillment to the Present life. Time Perspective was related to Significant Others and the Teacher was selected by many subject as the Significant Others. Therefore, the Teacher influence to the development of Time Perspective.

体育系大学生における時間的展望と重要な他者に関する研究

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
健康科学系 博士前期課程2年 猪又菜都子

目的: 体育系大学生における時間的展望の実態を把握し、重要な他者との関連を検討すること。
※ 調査によって得られたデータは研究目的以外での使用はいたしません。個人情報外部に漏洩しないよう厳重に保管され、研究結果を公表する場合にも個人が特定できないようデータに統計処理を施します。調査は途中であっても辞退および拒否することができます。

あなたについて教えてください。

- ()大学()学部()学科
 ○ 学年:()年 / 年齢:()歳 / 性別:(男・女)
 ○ 家族構成を記入し兄弟(姉妹)に関しては ○ 運動頻度: 1週間に()時間×()日
 人数も記入してください。 ○ 競技レベル

(地区・県・ブロック・全国)
大会出場

I

あてはまらない
どちらかといえ
あてはまらない
あてはまらない
あてはまる
あてはまる
あてはまる
あてはまる

1	私にはだいたいの将来の計画がある	5	4	3	2	1
2	私には将来の目標がある	5	4	3	2	1
3	将来のために考えて今から準備をしていることがある	5	4	3	2	1
4	私の将来は漠然としていてつかみ所がない	5	4	3	2	1
5	私の将来には希望がもてる	5	4	3	2	1
6	今の自分は本当の自分ではないような気がする	5	4	3	2	1
7	毎日が同じ事の繰り返しで退屈だ	5	4	3	2	1
8	毎日が何となく過ぎていく	5	4	3	2	1
9	将来の事をあまり考えたくない	5	4	3	2	1
10	私には未来がないような気がする	5	4	3	2	1
11	10年後、私はどうなっているのかよく分からない	5	4	3	2	1
12	今の生活に満足している	5	4	3	2	1
13	毎日の生活が充実している	5	4	3	2	1
14	自分の将来は自分で切り開く自信がある	5	4	3	2	1
15	過去の事はあまり思い出したくない	5	4	3	2	1
16	私の過去は辛い事ばかりであった	5	4	3	2	1
17	私は自分の過去を受け入れる事ができる	5	4	3	2	1
18	私は過去の出来事にこだわっている	5	4	3	2	1

Ⅱ これまでの人生においてあなたに影響を与えた人物を、下記の中から3人選択してください。選択肢にない場合はその他として人物を記入してください。
(友達や教師を複数回答する場合には、いつ・どのような人物であるのかを明記してください)

1. _____
2. _____
3. _____

父親・母親・兄弟・姉妹
祖父・祖母・親戚
恋人・友達・先輩・後輩
教師・タレント・その他

Ⅲ

1. _____ について

あてはまらない
どちらかといえば
あてはまらない
どちらかとも
いえない
どちらかといえば
あてはまる
あてはまる

1	一緒にいると安らぎを感じることができる	5	4	3	2	1
2	好意を感じている	5	4	3	2	1
3	一緒だと思うと安心できる	5	4	3	2	1
4	互いに助け合えると思う	5	4	3	2	1
5	自分の心の支えになっている	5	4	3	2	1
6	自分の考えや感情の深いところまで話せる	5	4	3	2	1
7	その人が嬉しいなら自分も嬉しくなる	5	4	3	2	1
8	その人のことを考えると頑張ろうと思わされる	5	4	3	2	1
9	自分のことを理解してくれていると思う	5	4	3	2	1
10	その人のことをどうしているだろうかと気にかけることがある	5	4	3	2	1
11	尊敬している	5	4	3	2	1
12	その人の様になりたい	5	4	3	2	1
13	その人の心の深い部分を理解したいと思う	5	4	3	2	1
14	自分の価値観はその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
15	自分の物事の好みはその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
16	その人の意見は自分の意見の基となっている	5	4	3	2	1
17	その人と自分のくせやしぐさが似ていると気付く	5	4	3	2	1
18	その人と自分の考え方やものの見方が似ていると感じる	5	4	3	2	1
19	その人のおかげで自分は変わったと思う	5	4	3	2	1
20	その人から多くのことを学んだと思う	5	4	3	2	1

2. _____ について

あてはまらない
 どちらかといえば
 あてはまらない
 どちらとも
 いえない
 どちらかといえば
 あてはまる
 あてはまる

1	一緒にいると安らぎを感じることができる	5	4	3	2	1
2	好意を感じている	5	4	3	2	1
3	一緒だと思うと安心できる	5	4	3	2	1
4	互いに助け合えると思う	5	4	3	2	1
5	自分の心の支えになっている	5	4	3	2	1
6	自分の考えや感情の深いところまで話せる	5	4	3	2	1
7	その人が嬉しいなら自分も嬉しくなる	5	4	3	2	1
8	その人のことを考えると頑張ろうと思わされる	5	4	3	2	1
9	自分のことを理解してくれていると思う	5	4	3	2	1
10	その人のことをどうしているだろうかと気にかけることがある	5	4	3	2	1
11	尊敬している	5	4	3	2	1
12	その人の様になりたい	5	4	3	2	1
13	その人の心の深い部分を理解したいと思う	5	4	3	2	1
14	自分の価値観はその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
15	自分の物事の好みはその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
16	その人の意見は自分の意見の基となっている	5	4	3	2	1
17	その人と自分のくせやしぐさが似ていると気付く	5	4	3	2	1
18	その人と自分の考え方やものの見方が似ていると感じる	5	4	3	2	1
19	その人のおかげで自分は変わったと思う	5	4	3	2	1
20	その人から多くのことを学んだと思う	5	4	3	2	1

3. _____ について

あてはまらない
 どちらかといえば
 あてはまらない
 どちらとも
 いえない
 どちらかといえば
 あてはまる
 あてはまる

1	一緒にいると安らぎを感じることができる	5	4	3	2	1
2	好意を感じている	5	4	3	2	1
3	一緒だと思うと安心できる	5	4	3	2	1
4	互いに助け合えると思う	5	4	3	2	1

5	自分の心の支えになっている	5	4	3	2	1
6	自分の考えや感情の深いところまで話せる	5	4	3	2	1
7	その人が嬉しいなら自分も嬉しくなる	5	4	3	2	1
8	その人のことを考えると頑張ろうと思わされる	5	4	3	2	1
9	自分のことを理解してくれていると思う	5	4	3	2	1
10	その人のことをどうしているだろうかと気にかけることがある	5	4	3	2	1
11	尊敬している	5	4	3	2	1
12	その人の様になりたい	5	4	3	2	1
13	その人の心の深い部分を理解したいと思う	5	4	3	2	1
14	自分の価値観はその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
15	自分の物事の好みはその人から影響を受けていると思う	5	4	3	2	1
16	その人の意見は自分の意見の基となっている	5	4	3	2	1
17	その人と自分のくせやしぐさが似ていると気付く	5	4	3	2	1
18	その人と自分の考え方やものの見方が似ていると感じる	5	4	3	2	1
19	その人のおかげで自分は変わったと思う	5	4	3	2	1
20	その人から多くのことを学んだと思う	5	4	3	2	1

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。

時間的展望体験尺度の回答割合

表12-1. 時間的展望体験尺度への回答

領域	因子 No.	項目	性 n	A大学			B大学			全体		
				男 105	女 64	計 169	男 80	女 70	計 150	男 185	女 134	計 319
過去 受 容	15 過去の事はあまり思い出したくない(逆)	あてはまる-5	17.1%	25.0%	20.1%	10.0%	11.4%	10.7%	14.1%	17.9%	15.7%	
		どちらかといえばあてはまる-4	22.9%	32.8%	26.6%	31.3%	30.0%	30.7%	26.5%	31.3%	28.5%	
		どちらともいえない-3	21.0%	23.4%	21.9%	27.5%	32.9%	30.0%	23.8%	28.4%	25.7%	
		どちらかといえばあてはまらない-2	29.5%	12.5%	23.1%	17.5%	21.4%	19.3%	24.3%	17.2%	21.3%	
		あてはまらない-1	9.5%	6.3%	8.3%	13.8%	4.3%	9.3%	11.4%	5.2%	8.8%	
	16 私の過去は辛い事ばかりだった(逆)	-5	27.6%	37.5%	31.4%	18.8%	21.4%	20.0%	23.8%	29.1%	26.0%	
		-4	35.2%	34.4%	34.9%	35.0%	31.4%	33.3%	35.1%	32.8%	34.2%	
		-3	22.9%	21.9%	22.5%	27.5%	31.4%	29.3%	24.9%	26.9%	25.7%	
		-2	13.3%	4.7%	10.1%	12.5%	14.3%	13.3%	13.0%	9.7%	11.6%	
		-1	1.0%	1.6%	1.2%	6.3%	1.4%	4.0%	3.2%	1.5%	2.5%	
	17 私は自分の過去を受け入れる事ができる	-5	31.4%	37.5%	33.7%	28.8%	24.3%	26.7%	30.3%	30.6%	30.4%	
		-4	44.8%	45.3%	45.0%	45.0%	55.7%	50.0%	44.9%	50.7%	47.3%	
		-3	16.2%	9.4%	13.6%	20.0%	18.6%	19.3%	17.8%	14.2%	16.3%	
		-2	5.7%	4.7%	5.3%	6.3%	1.4%	4.0%	5.9%	3.0%	4.7%	
		-1	1.9%	3.1%	2.4%	0%	0%	0%	1.1%	1.5%	1.3%	
	18 私は過去の出来事にこだわっている	-5	1.9%	1.6%	1.8%	5.0%	2.9%	4.0%	3.2%	2.2%	2.8%	
		-4	16.2%	12.5%	14.8%	20.0%	22.9%	21.3%	17.8%	17.9%	17.9%	
		-3	25.7%	23.4%	24.9%	31.3%	27.1%	29.3%	28.1%	25.4%	27.0%	
-2		25.7%	39.1%	30.8%	33.8%	35.7%	34.7%	29.2%	37.3%	32.6%		
-1		30.5%	23.4%	27.8%	10.0%	11.4%	10.7%	21.6%	17.2%	19.7%		
現 在 の 充 実 感	6 今の自分は本当の自分でないような気がする(逆)	-5	29.5%	32.8%	30.8%	18.8%	18.6%	18.7%	24.9%	25.4%	25.1%	
		-4	35.2%	35.9%	35.5%	31.3%	35.7%	33.3%	33.5%	35.8%	34.5%	
		-3	21.9%	15.6%	19.5%	31.3%	32.9%	32.0%	25.9%	24.6%	25.4%	
		-2	10.5%	10.9%	10.7%	11.3%	7.1%	9.3%	10.8%	9.0%	10.0%	
		-1	2.9%	4.7%	3.6%	7.5%	5.7%	6.7%	4.9%	5.2%	5.0%	
	7 毎日が同じことの繰り返しで退屈だ(逆)	-5	18.1%	26.6%	21.3%	10.0%	14.3%	12.0%	14.6%	20.1%	16.9%	
		-4	18.1%	34.4%	24.3%	25.0%	35.7%	30.0%	21.1%	35.1%	27.0%	
		-3	23.8%	20.3%	22.5%	32.5%	15.7%	24.7%	27.6%	17.9%	23.5%	
		-2	28.6%	14.1%	23.1%	22.5%	24.3%	23.3%	25.9%	19.4%	23.2%	
		-1	11.4%	4.7%	8.9%	10.0%	10.0%	10.0%	10.8%	7.5%	9.4%	
	8 毎日が何となく過ぎていく(逆)	-5	16.2%	18.8%	17.2%	7.5%	11.4%	9.3%	12.4%	14.9%	13.5%	
		-4	19.0%	26.6%	21.9%	7.5%	20.0%	13.3%	14.1%	23.1%	17.9%	
		-3	16.2%	23.4%	18.9%	33.8%	14.3%	24.7%	23.8%	18.7%	21.6%	
		-2	33.3%	21.9%	29.0%	35.0%	37.1%	36.0%	34.1%	29.9%	32.3%	
		-1	15.2%	9.4%	13.0%	16.3%	17.1%	16.7%	15.7%	13.4%	14.7%	
	12 今の生活に満足している	-5	13.3%	14.1%	13.6%	5.0%	10.0%	7.3%	9.7%	11.9%	10.7%	
		-4	21.9%	35.9%	27.2%	27.5%	38.6%	32.7%	24.3%	37.3%	29.8%	
		-3	30.5%	28.1%	29.6%	37.5%	28.6%	33.3%	33.5%	28.4%	31.3%	
-2		25.7%	18.8%	23.1%	25.0%	20.0%	22.7%	25.4%	19.4%	22.9%		
-1		8.6%	3.1%	6.5%	5.0%	2.9%	4.0%	7.0%	3.0%	5.3%		
13 毎日の生活が充実している	-5	13.3%	20.3%	16.0%	5.0%	11.4%	8.0%	9.7%	15.7%	12.2%		
	-4	36.2%	40.6%	37.9%	35.0%	35.7%	35.3%	35.7%	38.1%	36.7%		
	-3	27.6%	25.0%	26.6%	38.8%	34.3%	36.7%	32.4%	29.9%	31.3%		
	-2	19.0%	12.5%	16.6%	17.5%	17.1%	17.3%	18.4%	14.9%	16.9%		
	-1	3.8%	1.6%	3.0%	3.8%	1.4%	2.7%	3.8%	1.5%	2.8%		

表12-2. 時間的展望体験尺度への回答

領域	因子 No.	項目	性 n	A大学			B大学			全体		
				男 105	女 64	計 169	男 80	女 70	計 150	男 185	女 134	計 319
未来	目標指向性	1 私にはだいたい将来の計画がある	-5	40.0%	21.9%	33.1%	26.3%	17.1%	22.0%	34.1%	19.4%	27.9%
			-4	47.6%	43.8%	46.2%	37.5%	51.4%	44.0%	43.2%	47.8%	45.1%
			-3	6.7%	14.1%	9.5%	25.0%	17.1%	21.3%	14.6%	15.7%	15.0%
			-2	3.8%	12.5%	7.1%	10.0%	12.9%	11.3%	6.5%	12.7%	9.1%
			-1	1.9%	7.8%	4.1%	1.3%	1.4%	1.3%	1.6%	4.5%	2.8%
		2 私には将来の目標がある	-5	44.8%	31.3%	39.6%	33.8%	21.4%	28.0%	40.0%	26.1%	34.2%
			-4	40.0%	40.6%	40.2%	27.5%	37.1%	32.0%	34.6%	38.8%	36.4%
			-3	10.5%	12.5%	11.2%	28.8%	27.1%	28.0%	18.4%	20.1%	19.1%
			-2	1.9%	10.9%	5.3%	10.0%	12.9%	11.3%	5.4%	11.9%	8.2%
			-1	2.9%	4.7%	3.6%	0%	1.4%	0.7%	1.6%	3.0%	2.2%
		3 将来のために考えて今から準備をしている事がある	-5	27.6%	25.0%	26.6%	11.3%	11.4%	11.3%	20.5%	17.9%	19.4%
			-4	41.0%	39.1%	40.2%	31.3%	40.0%	35.3%	36.8%	39.6%	37.9%
			-3	21.9%	15.6%	19.5%	32.5%	24.3%	28.7%	26.5%	20.1%	23.8%
			-2	7.6%	14.1%	10.1%	21.3%	22.9%	22.0%	13.5%	18.7%	15.7%
			-1	1.9%	6.3%	3.6%	3.8%	1.4%	2.7%	2.7%	3.7%	3.1%
4 私の将来は漠然としていてつかみ所がない(逆)	-5	17.1%	14.1%	16.0%	11.3%	7.1%	9.3%	14.6%	10.4%	12.9%		
	-4	27.6%	23.4%	26.0%	23.8%	18.6%	21.3%	25.9%	20.9%	23.8%		
	-3	22.9%	20.3%	21.9%	21.3%	30.0%	25.3%	22.2%	25.4%	23.5%		
	-2	28.6%	32.8%	30.2%	33.8%	30.0%	32.0%	30.8%	31.3%	31.0%		
	-1	3.8%	9.4%	5.9%	10.0%	14.3%	12.0%	6.5%	11.9%	8.8%		
11 10年後、私はどうなっているのかよくわからない	-5	13.3%	6.3%	10.7%	2.5%	2.9%	2.7%	8.6%	4.5%	6.9%		
	-4	16.2%	20.3%	17.8%	8.8%	17.1%	12.7%	13.0%	18.7%	15.4%		
	-3	20.0%	25.0%	21.9%	20.0%	12.9%	16.7%	20.0%	18.7%	19.4%		
	-2	36.2%	32.8%	34.9%	42.5%	48.6%	45.3%	38.9%	41.0%	39.8%		
	-1	14.3%	15.6%	14.8%	26.3%	18.6%	22.7%	19.5%	17.2%	18.5%		
未来	希望	5 私の将来には希望がもてる	-5	19.0%	14.1%	17.2%	8.8%	5.7%	7.3%	14.6%	9.7%	12.5%
			-4	44.8%	45.3%	45.0%	25.0%	25.7%	25.3%	36.2%	35.1%	35.7%
			-3	27.6%	29.7%	28.4%	48.8%	47.1%	48.0%	36.8%	38.8%	37.6%
			-2	7.6%	7.8%	7.7%	16.3%	20.0%	18.0%	11.4%	14.2%	12.5%
			-1	1.0%	3.1%	1.8%	1.3%	1.4%	1.3%	1.1%	2.2%	1.6%
		9 将来の事をあまり考えたくない	-5	21.9%	18.8%	20.7%	12.5%	4.3%	8.7%	17.8%	11.2%	15.0%
			-4	33.3%	26.6%	30.8%	23.8%	28.6%	26.0%	29.2%	27.6%	28.5%
			-3	20.0%	23.4%	21.3%	15.0%	28.6%	21.3%	17.8%	26.1%	21.3%
			-2	18.1%	25.0%	20.7%	36.3%	25.7%	31.3%	25.9%	25.4%	25.7%
			-1	6.7%	6.3%	6.5%	12.5%	12.9%	12.7%	9.2%	9.7%	9.4%
		10 私には未来がないような気がする	-5	42.9%	50.0%	45.6%	26.3%	27.1%	26.7%	35.7%	38.1%	36.7%
			-4	35.2%	39.1%	36.7%	37.5%	28.6%	33.3%	36.2%	33.6%	35.1%
			-3	16.2%	4.7%	11.8%	23.8%	27.1%	25.3%	19.5%	16.4%	18.2%
			-2	4.8%	6.3%	5.3%	10.0%	15.7%	12.7%	7.0%	11.2%	8.8%
			-1	1.0%	0%	0.6%	2.5%	1.4%	2.0%	1.6%	0.7%	1.3%
14 自分の将来は自分で切り開く自信がある	-5	22.9%	14.1%	19.5%	10.0%	12.9%	11.3%	17.3%	13.4%	15.7%		
	-4	43.8%	40.6%	42.6%	32.5%	34.3%	33.3%	38.9%	37.3%	38.2%		
	-3	24.8%	25.0%	24.9%	41.3%	37.1%	39.3%	31.9%	31.3%	31.7%		
	-2	8.6%	20.3%	13.0%	15.0%	14.3%	14.7%	11.4%	17.2%	13.8%		
	-1	0%	0%	0%	1.3%	1.4%	1.3%	0.5%	0.7%	0.6%		